

LPA 30 Selected Projects

2026.03.18



©2026 株式会社ライティング プランナーズ アソシエーツ

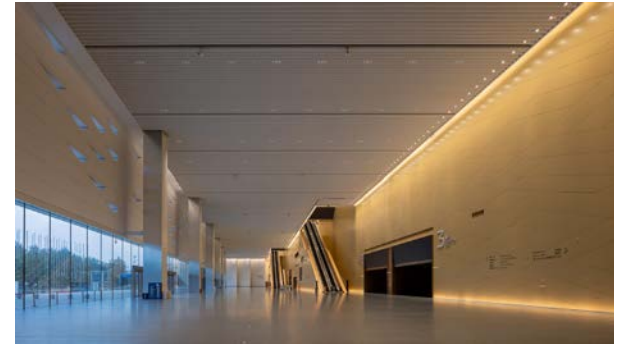
本作品の著作権は株式会社ライティング プランナーズ アソシエーツに帰属しており、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。本作品につき、無断転載、無断複製等をかたく禁じます。本作品についての使用許諾、著作権等についてのお問い合わせは、以下にご連絡下さい。

株式会社ライティング プランナーズ アソシエーツ
〒104-0051 東京都中央区佃 1-11-8 1F
lpa@lighting.co.jp <http://www.lighting.co.jp>
Tel : 03 4500 6380 Fax : 03 4500 6383

国家会议中心二期

2024 北京 中国
Beijing North Star Company / 2Portzamparc / HBA /
CallisonRTKL / Valode & Pistre Architectes

中国を代表するコンベンションセンターである。建築は鯤鵬(こんほう)が翼を広げるような造形で、軽やかでありながらも堂々とし、威厳の中に親しみやすさを備えることで未来への希望、平和を表している。インテリアデザインは「和合共生・天人合一」を軸に、光・素材・空間の連なりを巧みに融合させることで、文明の記憶を宿す殿堂としての会議空間を形成している。照明は控えめでシンプルな手法により個性ある光環境を創出しながら、省エネルギーと低炭素化にも配慮している。



One Za'abeel

2023 ドバイ アラブ首長国連邦

Investment Corporation of Dubai (ICD) / 日建設計

ドバイ国際空港から市街地へと向かう高速道路上に立つ、新たなシンボルゲート。高速道路を挟む2棟の高層タワーと、それらを地上100mで連結する「THE LINK」からなる。タワーのガラスフィンに沿ったライン照明で垂直性を演出し、ポディウムは様々なピッチで連なるルーバーを間接照明でシルエットに見せレイヤー感を強調している。THE LINKには外形を縁取るライン照明のほか、構造フレームのアップライトと演出的なドットライトを施した。遠景・中景・近景と異なるスケールでの見え方を意識して照明計画を行った。



太宰府天満宮「仮殿」

2023 福岡

太宰府天満宮 / 藤本壮介建築設計事務所

124年ぶりの御本殿大改修の間に参拝者を迎えるため建てられた、3年間限定の「仮殿」。曲面の屋根上には、背景に広がる豊かな自然につながる森が浮かんでいる。内部のルーバー天井内に納められた照明は、細かなエイミングがされており、日中だけでなく夜の祭事に合わせた様々なシーンが設えられている。



石川県立図書館

2022 石川

石川県 / 環境デザイン研究所 / マインドスケープ
トータルメディア開発研究所

新たな敷地にて、開架冊数も書庫収蔵能力も旧館の規模を大きくスケールアップした新図書館が開館した。知の殿堂を象徴する円形の閲覧空間は、書架と本自身が空間要素の中心となり、圧倒的な荘厳さに満ちている。閲覧エリアには、多様な居心地を備えた家具が各所にちりばめられ、こどもエリアは一段と親しみやすく楽しい場所になっている。空間ごとの特徴に寄り添い、アンビエント光と機能照明をバランスよく配置することに注力し、外観においても夜景として親しみを持ってもらえる風景となるように設計した。

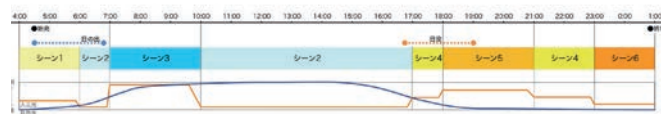
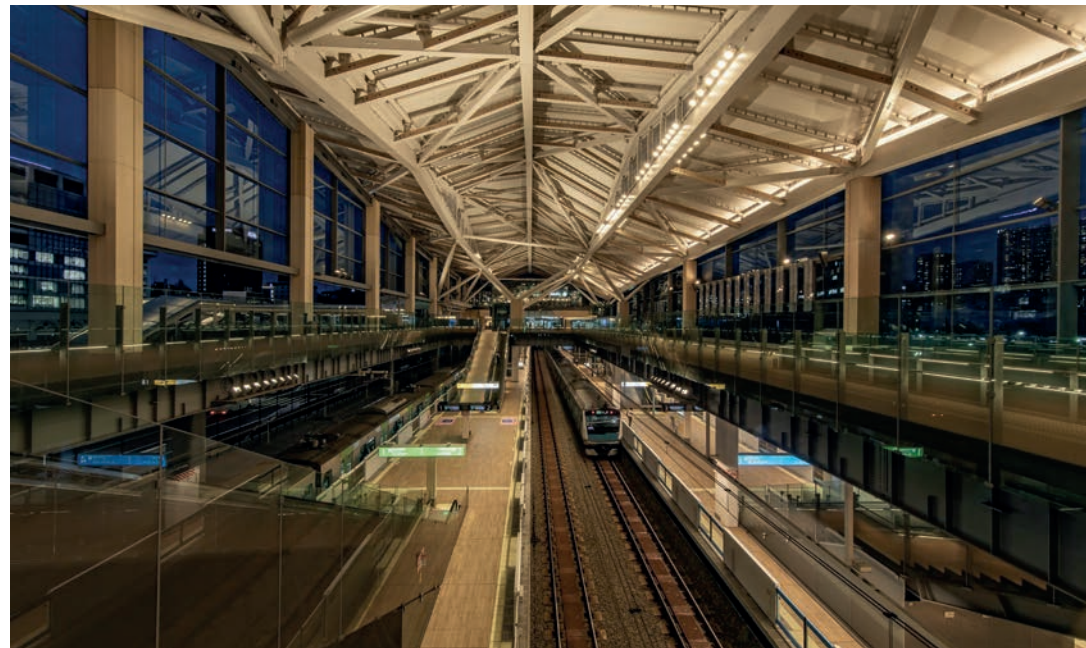


高輪ゲートウェイ駅

2020 東京

東日本旅客鉄道 / 品川新駅設計共同企業体 / 隈研吾建築都市設計事務所

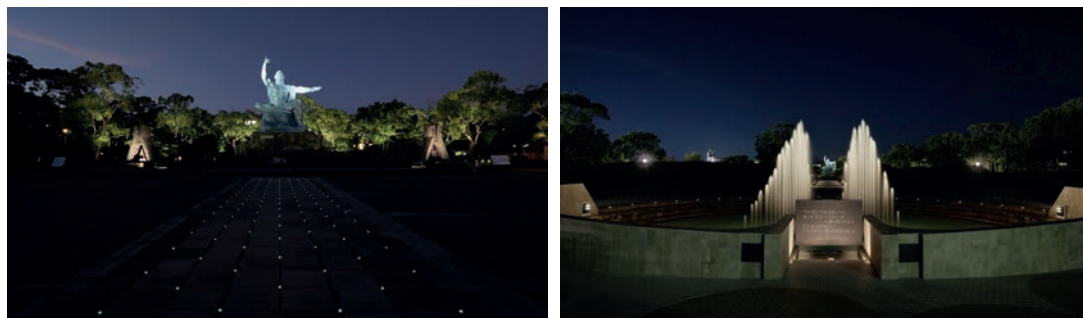
JR 山手線に49年ぶりとなる新しい駅が開業した。特徴的な大屋根が駅舎を一体的に覆うデザインの建築に対して、照明もそのランドマーク性を十分に高めることを目指した。建築意匠に沿った照明計画と、調光調色制御の活用によって、従来のように照度を確保するだけでなく、刻々と変化する自然光を感じられる、新しい駅舎の照明を実現させた。



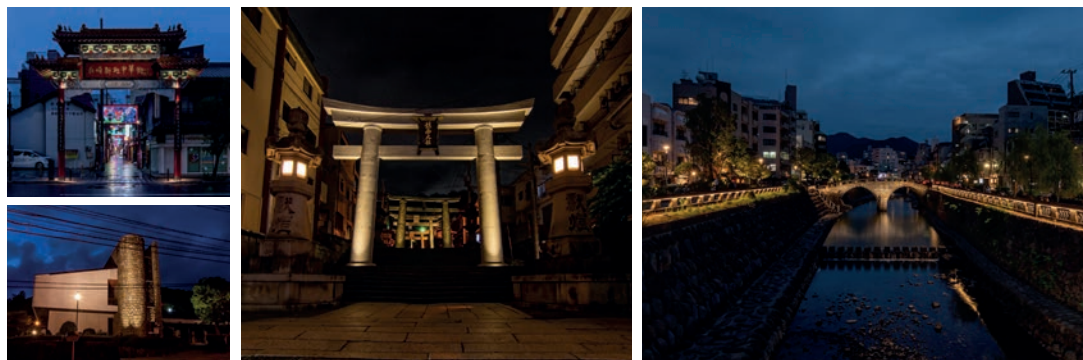
環長崎港夜間景観整備

2020 長崎
長崎市

2017年に策定した長崎市内の夜間景観ガイドラインに沿って、平和公園や山手地区などに引き続き、眼鏡橋や諏訪神社を含む4つのエリアの整備が新たに竣工を迎えた。夜景を楽しみながら歩きたくなるような景色が広がっている。



整備前の街並み

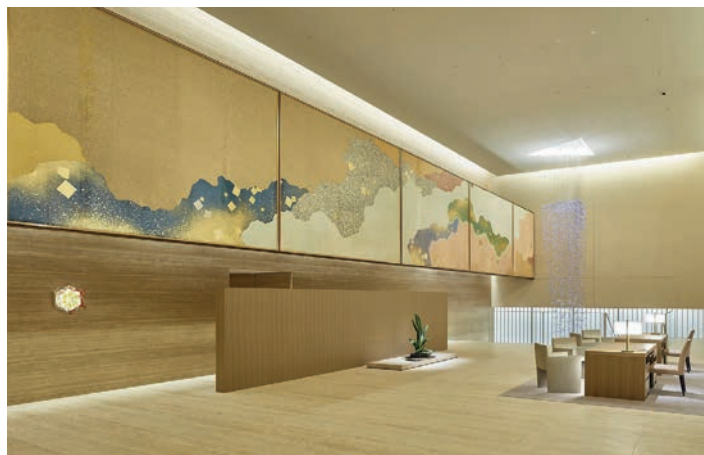
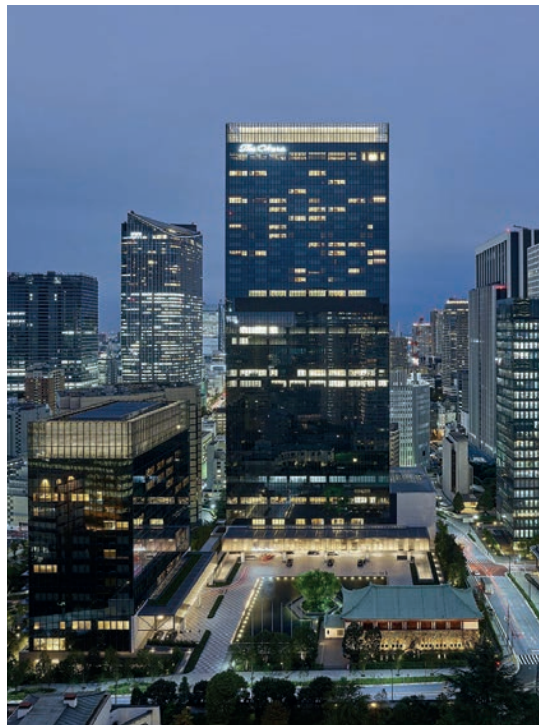


The Okura Tokyo

2019 東京

ホテルオークラ / 谷口建築設計研究所 / G A Design International /
観光企画設計社 / 大成建設

惜しまれつつ閉館したホテルオークラ東京 本館が The Okura Tokyo としてリニューアルオープンした。国内外のゲストに愛されたメインロビーを忠実に再現しつつ、LED 光源による照明計画は本館の柔らかな光環境を見事に現代に蘇らせた。

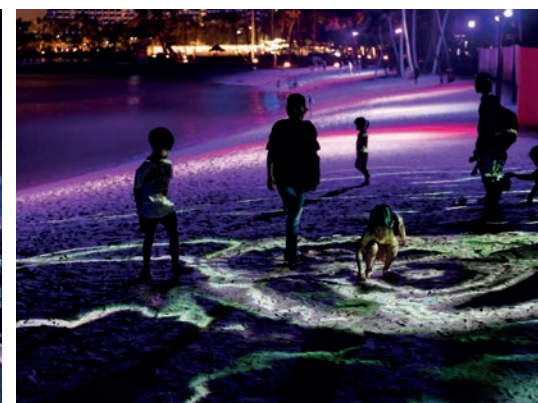


MAGICAL SHORES AT SILOSO

2020 シンガポール

Sentosa Development Corporation / 1 → 10 Inc. / Hexagon Solution

都心部に近いレジャーアイランドとして人気のセントサ島の夜間活性化計画の一環として、ビーチ沿いに大規模な光のインスタレーションが計画された。400メートルにわたる砂浜は、夜になるとセントサの自然にインスピレーションを受けた美しい光とプロジェクションで、幻想的な舞台へと変貌する。来訪者はビーチを散歩しながら、天候や風・人の動きにインタラクティブに反応する光を楽しむことができる。



JEWEL CHANGI AIRPORT

2019 シンガポール

Jewel Changi Airport Trustee / Safdie Architects / Benoy /
RSP / PWP / ICN

シンガポールチャンギ空港の3つのターミナルをつなぐように配置されたガラスドームの建築が2019年オープンを迎える。商業、ホテルの他、来客が楽しめるインドアガーデンには様々なアトラクションが散りばめられている。日中は時々刻々と変化する昼光と人工照明とのバランスが考えられ、日没後も時間の変化と共に様々な光の表情を演出。24時間の光のオペレーションが計画されている。

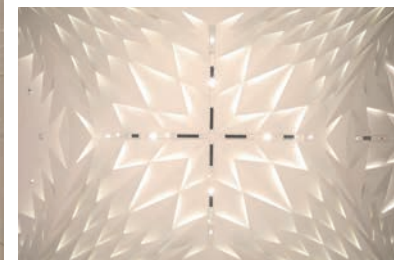
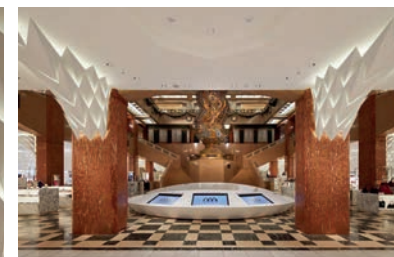


日本橋三越本店

2018 東京

三越伊勢丹 / 隈研吾建築都市設計事務所

国の重要文化財にも指定されている、歴史ある日本橋三越本店の改装計画。「白く輝く森」がコンセプトである。本館1階全体に展開される柱の"樹冠"は、美しいグラデーションの光で百貨店の空間として統一感を与え、天井には建築の幾何学のパターンを頼りにダウンライトを配置し、人の流れる道と人が集まるおもてなしの場を演出している。



静岡県富士山世界遺産センター

2017 静岡

静岡県 / 坂茂建築設計 / 丹青社 / オンサイト計画設計事務所

ユネスコ世界文化遺産に登録された富士山の、文化発信・研究拠点となる施設である。木格子に覆われた逆さ富士型の展示棟は、夜には下部から柔らかく照らしあげられ、水盤には山頂に光が積もったかのような富士山型として映り込む。

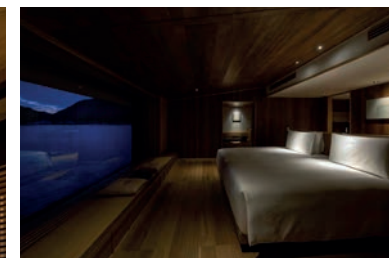


ガンツウ

2017 広島

せとうちクルーズ / せとうちホールディングス / 常石造船 /
堀部安嗣建築設計事務所

せとうちの穏やかな内海を航行する室数 19 室の客船。船舶仕様という制限の中、建築家、諸関係者と綿密な調整を重ね、カンテラ、船用ダウンライトなど、多数の特注器具を制作した。客室照明はそのまま船の外観の表情となり、共用部の大屋根アップライト、カンテラが作るリズムと相まって、停泊地の人々を魅了する夜景として表出した。

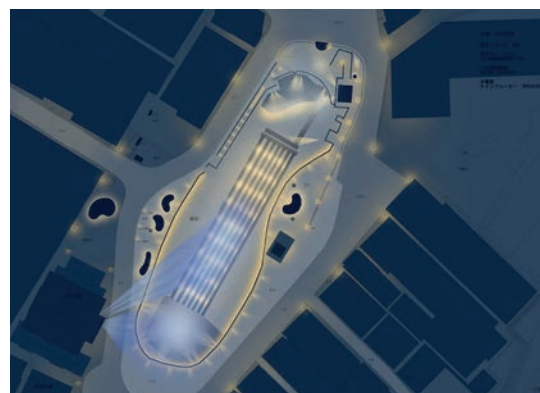


草津温泉灯路計画 湯畑

2016 群馬

草津町 / 北山創造研究所 / 北山孝二郎 + K 計画事務所

名湯として人気の高い草津温泉では、ここ数年の周辺整備事業により景観が生まれ変わっている。その一環として、湯畑から西の河原公園をつなぐ灯路計画が作られた。その第一弾としてシンボルともいえる湯畑周辺の夜間演出照明が整備された。立ち上る湯気と湯桶が幻想的に浮かび上がり、観光客を楽しませている。

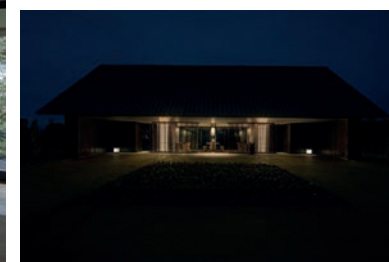
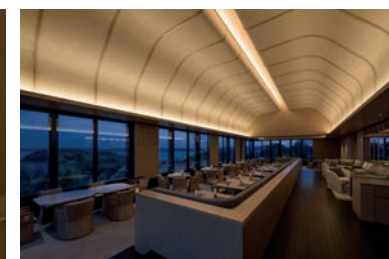
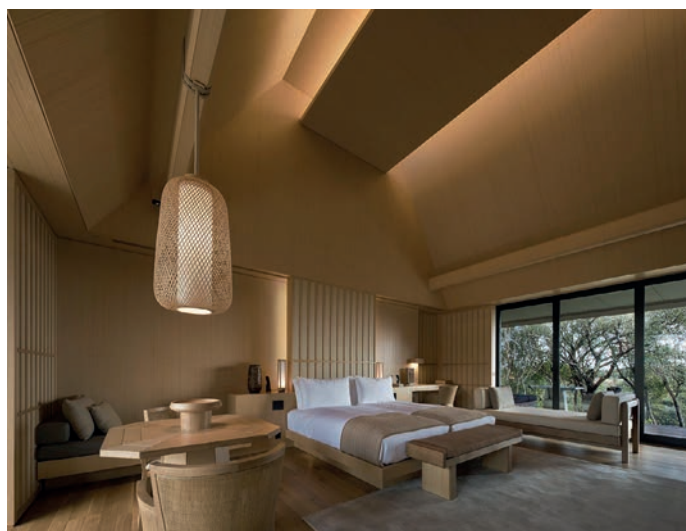


アマネム

2016 三重

三井不動産 / Kerry Hill Architects

英虞湾を望む緑豊かな国立公園内に建設されたヴィラタイプのリゾートプロジェクト。“Dialog with Moonlight”をコンセプトキーワードとし、光のミニマリズムを追求した。特に外構においては、宿泊客に自然の夜空を楽しんでもらえるよう、光量をより抑制した上質な暗闇を作り出すことに努めた。

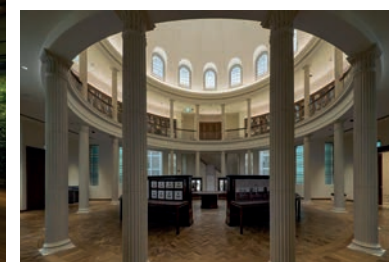
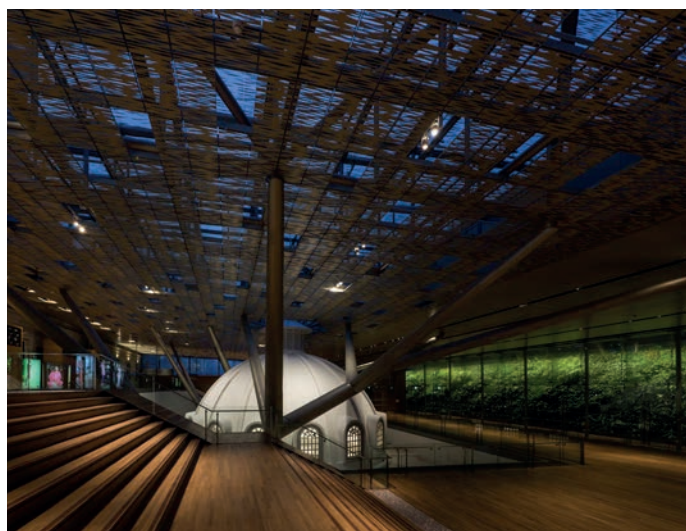


National Gallery Singapore

2015 シンガポール

National Gallery Singapore / studioMilou Singapore Pte Ltd /
CPG Corporation Pte Ltd

シンガポールの歴史的建築である旧裁判所と旧市庁舎が繋がり、東南アジアで最大の美術館が誕生した。連結部分では太陽からの普遍的な光と影が体験できる。ファサード照明は窓や柱のディテールを柔らかい光で繊細に捉えられている。美術館内部はアジア美術の膨大なコレクションが展示されており、建築の仕上げと共に丁寧に照明されている。



SINO-OCEAN TAIKOO LI CHENGDU

2015 成都 中国

Sino-Ocean Land / Swire Properties / the Oval partnership/
Spawton Architecture & Elena Galli Giallini Architecture &
Design / Urbis

大慈寺を中心としたエリアの大規模開発で、低層商業エリアとホテル (THE TEMPLE HOUSE)、オフィスタワー (PINNACLE ONE CHENGDU) を有する。商業モールでは、敷地内に点在する歴史的な建築物と切妻屋根を持つモダンな低層棟が、これまでにない洗練された街並みをつくっている。ランドスケープやアートをよりどころに鉛直面の光を点在させ、また要所で切妻の軒をアップライトすることで、ショッピングを楽しむ人々を快適に導いている。

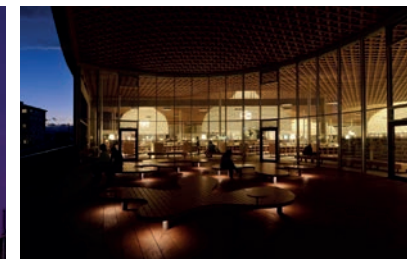
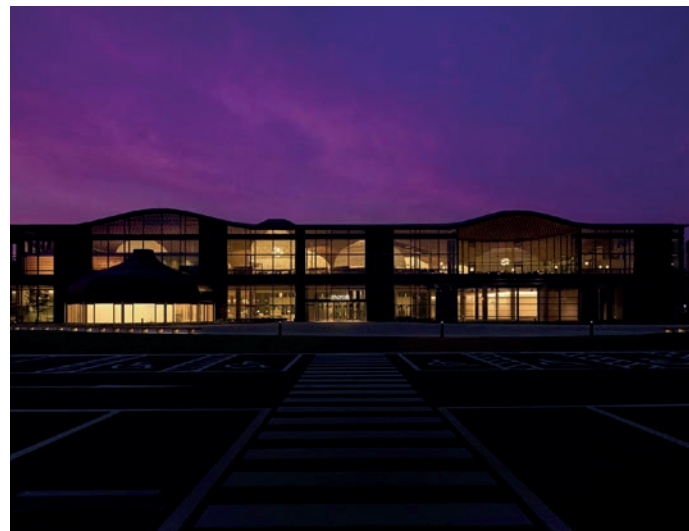


みんなの森 ぎふメディアコスモス

2015 岐阜

岐阜市 / 伊東豊雄建築設計事務所

中心市街地に建つ図書館を中心とした複合公共施設である。2階の開架閲覧エリアでは木天井から吊られた傘状の“グローブ”が、昼光や空気の流れを取り込む環境装置となっている。このグローブを中心に、森の中にいるようなゆったりとした雰囲気の中、自然との繋がりを感じられる光環境とした。



アマン東京

2014 東京

東京建物 / 大成建設 / ケリー・ヒル・アーキテクツ

都心部にできたアマンリゾートのラグジュアリーシティホテル。都内を一望できるレセプションのアトリウム空間では、時間帯に合わせてダイナミックにシーンが変わり空中庭園にいるような雰囲気を楽しめる。外の景色を楽しむように照明の配置に気を配り、落ち着きのある空間をつくっている。

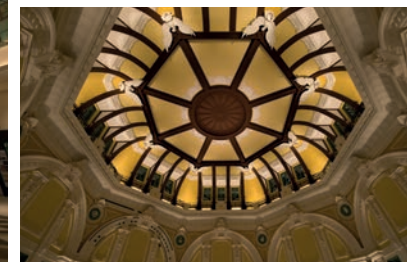
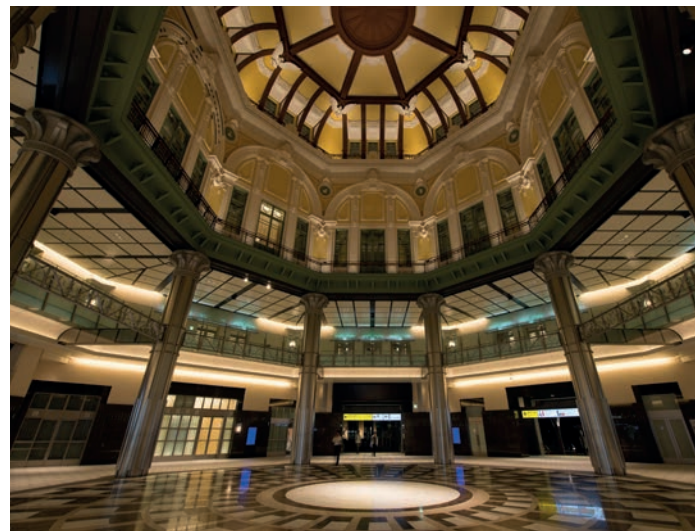


東京駅丸の内駅舎ライトアップ

2012 東京

東日本旅客鉄道 / 東京電気システム開発工事事務所 /
ジェイアール東日本建築設計事務所

急速な発展を続ける東京駅周辺の環境にあって、その中心に潤いを与えるべく、100年前の駅舎が再生された。鉄とガラスとコンクリートの現代都市景観の中に、赤レンガの風格が挿入され時を超えた景色が創られた。ここに出現すべき夜間景観は、奇をてらうことなく丁寧に、この時代を超えた遺産を最新鋭の照明技術で再現することになった。「和やかな景色」を創出することが大切だと考えた。



ガーデンズ バイ ザ ベイ, ベイ サウス

2012 シンガポール Singapore
National Parks Board / Grant Associates, Wilkinson Eyre.
Architexts, CPG Consultants

シンガポールの大規模植物園、ガーデンズ バイ ザ ベイの第一弾、ベイサウスガーデンが2012年6月29日に一般公開された。総工費650億円、54ヘクタールの敷地内には'クールド コンサバトリー'と呼ばれる2つのガラス張りのドームと'スーパーツリー'と呼ばれる植栽に覆われた18本のタワー状のモニュメントがある。シンガポールの新たな屋外型エンターテイメントであるこのプロジェクトに、「オーガニックな光のエンターテイメント」というコンセプトを提案した。照明スキームが安全を確保し観客を楽しませると同時に、ドラマティックな影をデザインし、過剰な光を避けて緑と水との調和する"オーガニック ラइटニング"をしつらえた。



リフレクションズ アット ケッペルベイ

2011 シンガポール

Keppel Land / Studio Daniel Libeskind / DCA Architects

海辺のランドマークとして開発されているコンドミニウム。象徴的でありながら、住宅に適した柔らかな照明デザインが求められた。ファサードはアイコンとなる建物頂部の照明とタワーのエッジに施したライン照明によって最小限に抑えた。公共エリアでは、建築表層の独特なグラフィックパターンを際立たせている。

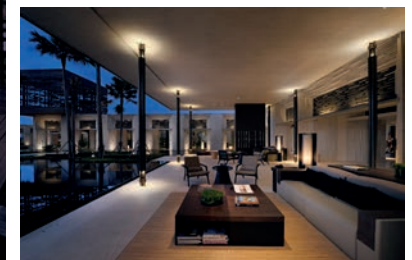


アリラ ヴィラズ ウルワトゥ

2009 インドネシア

PT Bukit Uluwatu Villas / WOHA / CICADA

バリ島南部のヴィラ形式のリゾート。「自然の力」というコンセプトのもと、風・月光・火・水・樹木といった5つの要素に着目し、リゾートにふさわしい心地よい照明を計画した。また自然な暖かみをもつ白熱灯だけでなく、LEDなどの光源も積極的に使用し、キャンドルとLEDが共存する新しい時代のリゾートを目指した。

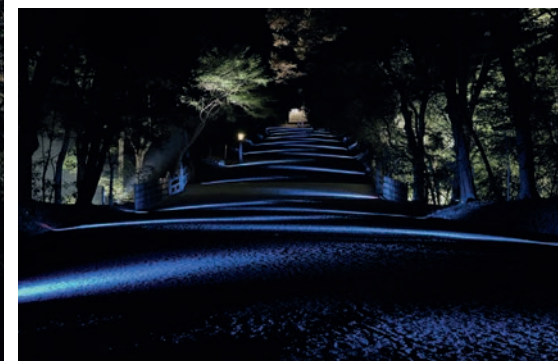
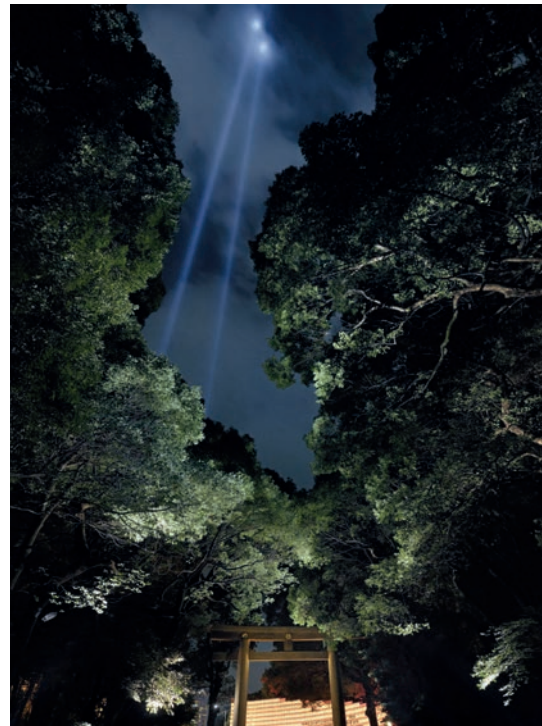


明治神宮御社殿復興 50 年記念 「アカリウム」

2008 東京

明治神宮御社殿復興 50 年記念奉祝事業実行委員会

東京にも美しい闇が生きていた。明治神宮の御社殿の再建 50 周年をお祝いして、参道と神社に芸術的な光のデザイン演出が施された。私たちは、環境に優しい僅かでエコロジカルなあかりの演出をコンセプトに照明計画を行った。21 世紀の新光源 LED と古代からの灯火を組み合わせてことによって斬新な光環境が出現した。初めての夜間参拝の試みに 15 万人もの市民がつめかけ光と闇を楽しんだ。



シンガポールシティセンタ ライティングマスタープラン

2006 シンガポール
URA

シンガポールシティセンタ全体の照明マスタープランを計画した。北緯1度に位置するトロピカルな現代都市から導き出した5つの主な特徴（高温多湿な気候、灼熱の太陽、濃く鮮やかな緑、複数民族の共生、水のある風景）を軸に、個性的な夜景を作るためのマスタープランを展開した。Orchard Road, Bugis, Singapore River, Central Business District, Downtown at Marina Bayというそれぞれ特徴ある4地区に対し、マスタープランと照明ガイドラインが作成された。



京都迎賓館

2005 京都

日建設計

京都に和のあかりを伝える迎賓館が誕生した。和を創造する5つの光環境として、(1)豊かな階調を表現すること、(2)透過と反射を多用すること、(3)季節や一日の変化を大切にすること、(4)客の移動する視線を演出すること、(5)自然光の魅力を活用すること、を実現したいと考えた。こうした光環境は、高度な光学機器照明の設計と建築や家具詳細への精緻な納まりによって、その技術を露出することなく見事に近代日本建築として完成した。

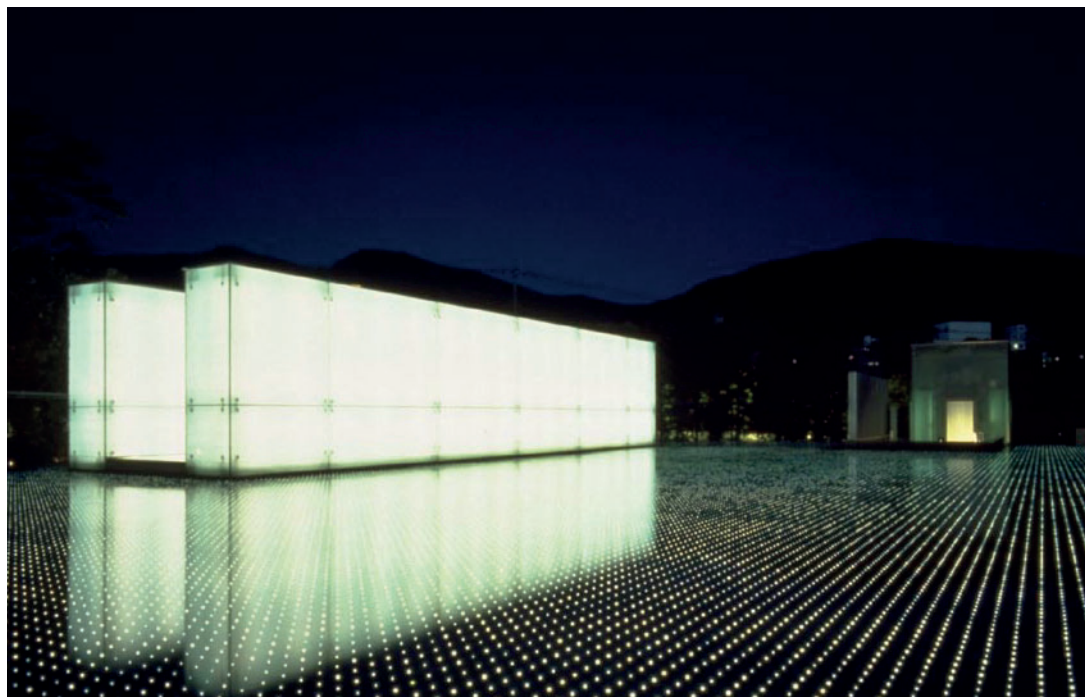
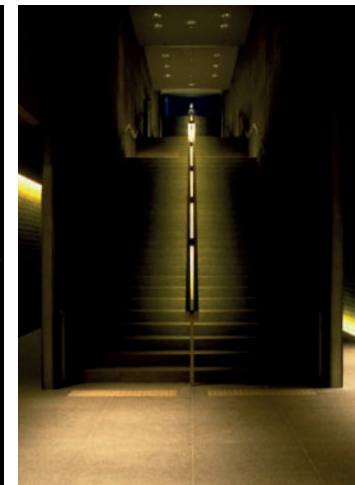


国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

2003 長崎

国土交通省九州地方整備局繕部 / 栗生明+栗生総合計画事務所

原子爆弾により亡くなられたすべての方々への追悼と永遠の平和を祈念する施設である。建築はほとんどすべてが地下に埋設されている。地上部は「水」が静かに流れ落ちる円形の水盤としている。水盤には7万余の小さな「光」がともる。石版にあげられた小さな穴を通した光ファイバーの「光」は「水」に揺らめき、自然と祈りの気持ちをおこさせる荘厳な夜景をつくり出している。



六本木ヒルズ

2003 東京

森ビル / ジャーディパートナーシップ / コンランアンドパートナーズ

六本木ヒルズの照明計画は全体で7社の照明デザイン会社が携わり、その中の外構・外観に関わる照明デザインについての調整業務を行った。LPAとしては66プラザ、デッキ下、環状3号線、六本木けやき坂通り、六本木さくら坂、さくら坂公園、といったパブリックエリアの照明計画を中心に、また、けやき坂コンプレックスの屋上庭園や、六本木ヒルズレジデンスの屋上庭園など、限られた人が使用する空間の照明計画も担当した。街区全体をグレアレスで3,000Kの暖かな光で統一し、夜にはショッピングタイム、レストランタイム、パーティタイム、深夜のセキュリティタイムという4つの光のオペレーションを計画した。



せんだいメディアテーク

2000 宮城
伊東豊雄建築設計事務所

仙台市のマルチメディア図書館、美術館、多目的スペースなどが複合されたガラス建築である。建築デザインの特徴は、チューブと呼ばれる特殊な構造によって建築を軽快に見せていることである。照明デザインは、建築デザインのコンセプトを受けて各階の機能と新しい建築空間の表現を工夫した。

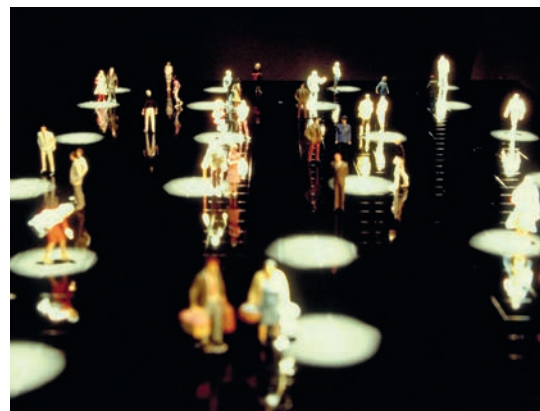
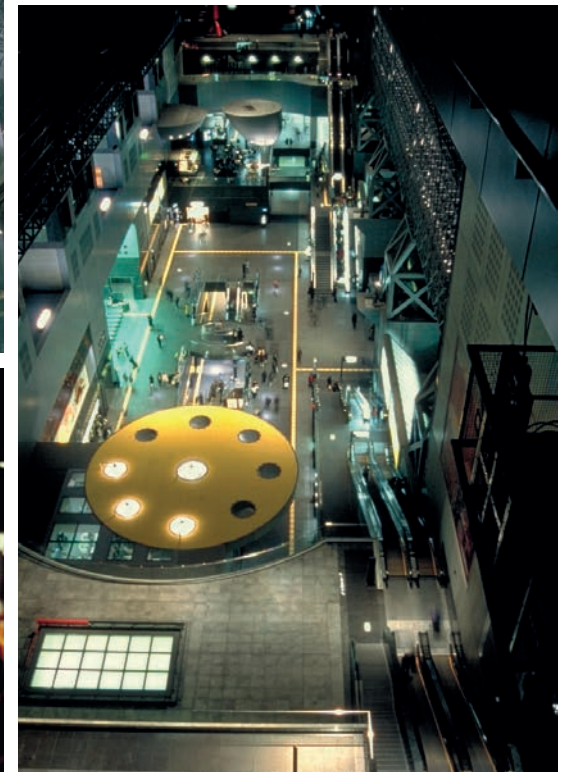


京都駅ビル

1997 京都

原広司 + アトリエ・ファイ建築研究所

照明デザインはこれまでの駅舎に見られる高照度で均質な光環境を刷新し、京都ならではの「美しい陰影のある駅」をテーマに組み立てられた。空中経路下部に仕込まれたスポットシステムだけでコンコース、デッキの床面に対し適光適所の光を落とし、機能照明を十分満足させながらも、陰影を消し去ることのないように配慮されている。



東京国際フォーラム

1996 東京

ラファエルヴィニオリ建築士事務所

14.5万平方メートルの複合公共建築そのものが、光の量に偏重した従来の公共照明を越えて、ダイナミックな建築照明のサンプルとしてデザインされた。照明計画は基本設計時点から監理業務そして竣工を迎えるまで6年あまりを費やした。

中でも最も特徴的なガラスホールの照明は「透過性」と「夜と昼の対比」をテーマとしてデザインされ、ユニークな構造体を夜空に象徴的に浮かび上がらせている。

